静岡県・静岡市・ホビー推進協議会静岡
模型文化発信施設整備構想に係る共同記者会見　次第

日時：令和８年 11 月４日（水）午後３時 15 分から３時 45 分まで
場所：静岡県庁別館２階第二会議室（静岡市葵区追手町９－６）

１　静岡県コンテンツ関連産業分野における
　　地域産業クラスター計画（案）の概要　　（静岡県）
（資料１、資料２、資料３）

２　模型文化発信施設整備構想の概要　　（静岡市）
（資料４、資料５）

３　ホビー推進協議会静岡による参画表明（ホビー推進協議会静岡）

４　質疑応答

５　三者による写真撮影

（発表要旨）
・静岡県、静岡市及びホビー推進協議会静岡の三者は、地域未来戦略に係る「静岡県コンテンツ関連産業分野における地域産業クラスター計画（案）」にある、模型文化を発信する拠点施設として、静岡駅南口の「静岡ホビースクエア」を東静岡地区に移転、再整備を検討する。

・静岡県の用地を活用、静岡市が建物を整備し、ホビー推進協議会静岡が展示物を用意する三者共同事業とすることを基本として検討を進める。

・文化・スポーツの拠点として発展が期待される東静岡地区の特性を踏まえ、県有地であるグランシップ芝生広場の一部を候補地とする。

資料１

静岡県・静岡市・浜松市　コンテンツ関連産業分野における地域産業クラスター計画の概要（案）

国へ提出し確認中

１．産業領域

観光業、ゲーム・ＣＧ制作業、ソフトウェア開発業、
プラスチックモデルキット製造業、模型・玩具製造業、
パッケージ印刷業、情報通信業 、教育・学習支援業、
スポーツ産業 、サービス業 、小売業 等

２．対象エリア

静岡市、浜松市、焼津市



３．目指す姿（目標）

（１）現状の整理

- **静岡市・浜松市・沼津市が国の「コンテンツ地方創生拠点」に選定された（令和８年３月）**
- **静岡県は首都圏から近く、人気アニメの舞台となった多くの聖地があり（全国７位）**、県が支援したコンテンツ関連の周遊商品造成数は457件にのぼる
- **プラモデル製造における国内最大の企業集積地であり、全国出荷額約514億円のうち86.8%のシェアを誇るなど、コンテンツ産業が発展するための素地を有する**
- **コンテンツの活用推進に向けた官民連携コンソーシアムを設置した（令和８年３月）**

（２）KGI

- **官民設備投資額：130億円（5年間）**
- 付加価値額増加：120億円（10年間）
- 産業人材育成数：　2万人（5年間）

４．勝ち筋

（１）基本戦略：

- ①推し活ツーリズムの推進、②クリエイティブ人材の育成、③コンテンツ産業の振興を目標とする「しずおかオシノミクス３本の矢」を推進する
- コンテンツ地方創生拠点における取組、官民連携コンソーシアムにおける会員間の連携事業等により、コンテンツの力を活用した産業振興、地域活性化を図る

（２）投資の具体像：５年総額130億円
（官：20億円、民：110億円）

- **官：模型文化発信施設の整備**、模型活用STEAM教育プログラムの実証支援
- **民：模型文化発信施設の運営**、模型活用STEAM教育プログラムの開発、AI、3DCG、XR等の先端技術設備の導入等

５．政策手段

（１）投資促進に向けた課題

- コンテンツ関連のソフト事業が充実しているものの、拠点施設等のハードが不足
- 県内各地域の取組の面的な展開が必要

（２）講じるべき政策パッケージ

①推し活ツーリズムの推進

- 官民が連携したアニメ・ホビーツーリズムの推進
- 各地の取組をつないだ広域的な誘客事業の展開

②クリエイティブ人材の育成

- 模型を活用したSTEAM教育プログラムの開発
- 教育機関等と連携した専門人材の育成
- 企業と学生とのマッチング

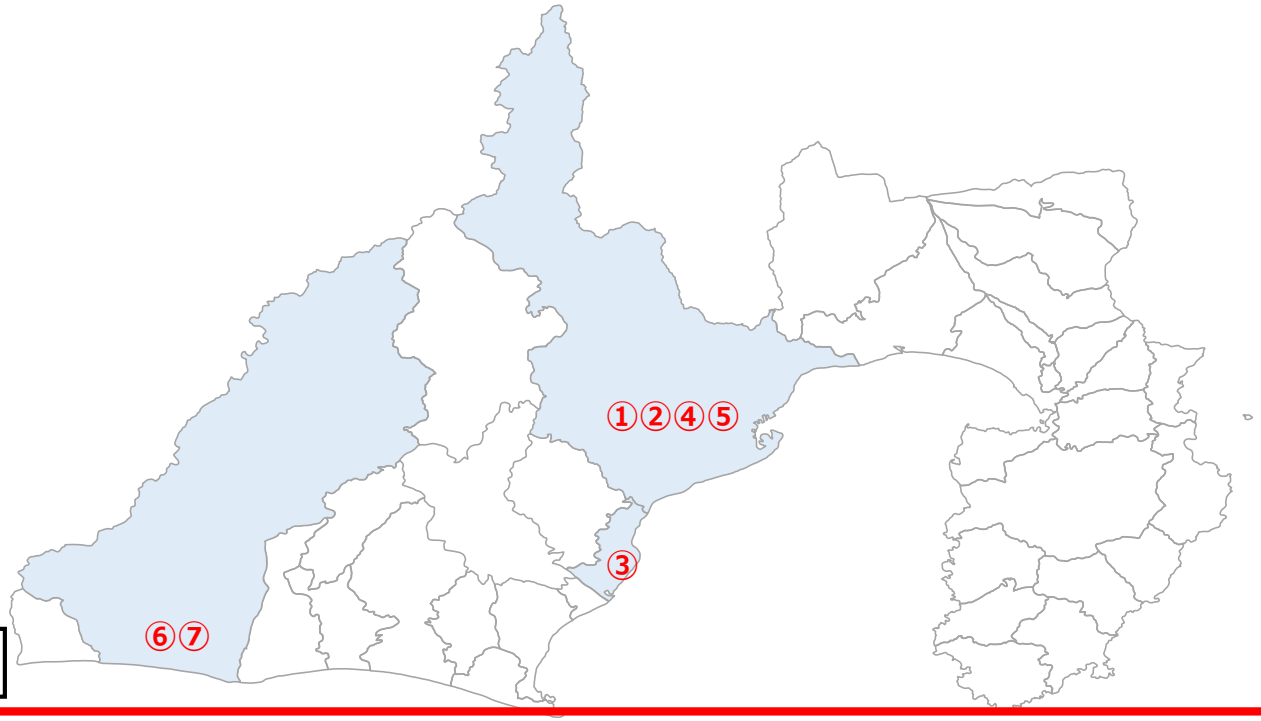
③コンテンツ産業の振興

- 模型文化発信施設の整備・運営
- 静岡県の強みを活かした企業誘致の推進　他

静岡県・静岡市・浜松市　コンテンツ関連産業分野における地域産業クラスター計画の概要（案）

資料２

国へ提出し
確認中



核となる事業者

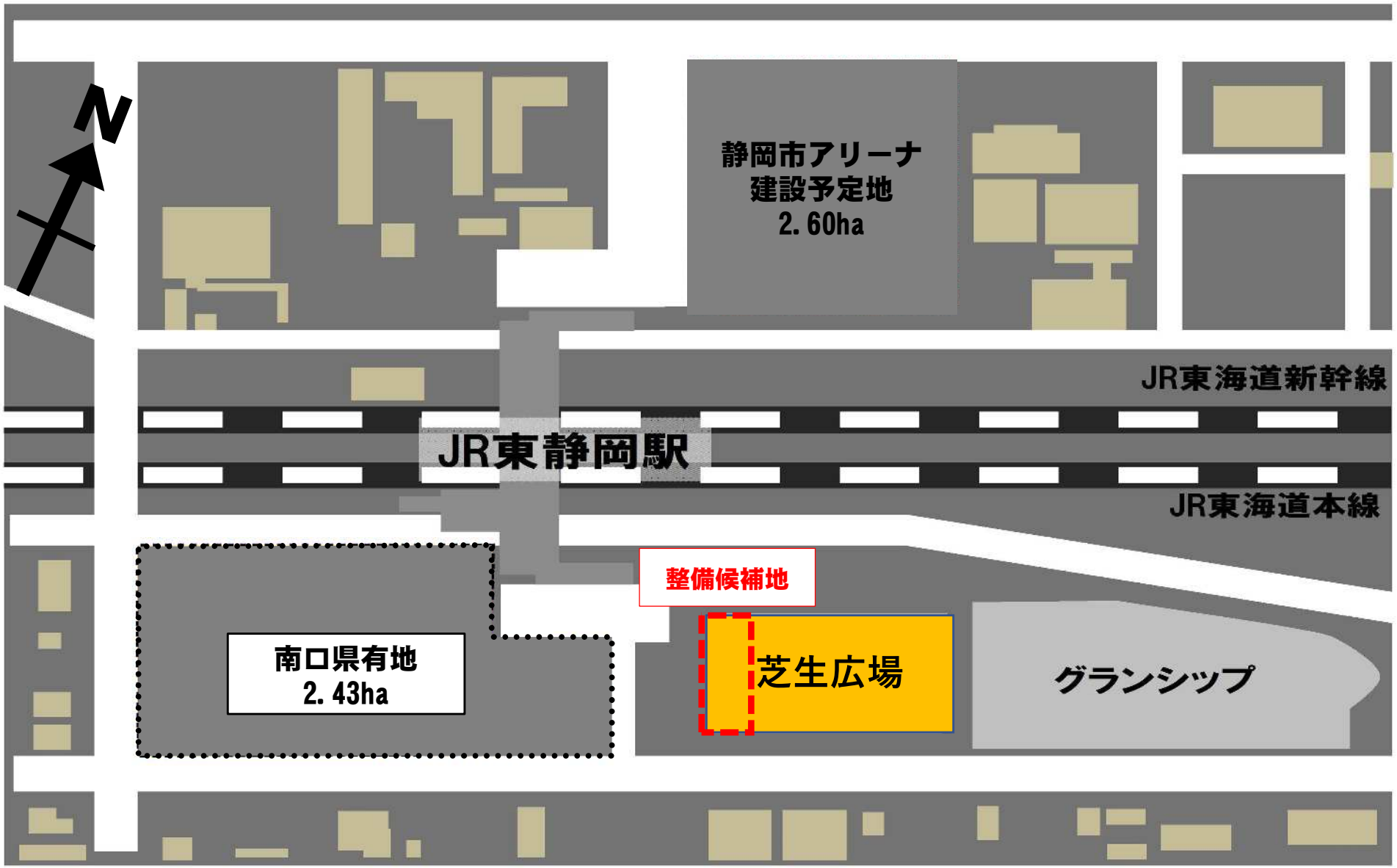
①青島文化教材社　②タミヤ　③ハセガワ　④BANDAI SPIRITS　⑤ウッディジョー

⑥遠州鉄道　⑦天竜浜名湖鉄道

模型文化発信施設整備構想に
ご協力いただく事業者

資料３

東静岡周辺地区　配置図



資料４

模型文化発信施設整備構想について

（静岡市）

１　背景・課題

・静岡市を中心とする県内模型産業は、高品質な製品と強固なブランド力を背景に、国内・国際市場において確固たる地位を確立しています。「模型の世界首都」である静岡市には多数の模型関連施設が立地するとともに、年間を通じて様々な模型関連イベントが実施されています。しかし、施設やイベント間の連携が不足しており、相乗効果が十分発揮されていないため、これらをつなぎ、一体的に情報発信する仕組みが求められています。

・近年、模型市場は拡大傾向にある中、模型情報発信拠点施設として市が設置し、ホビー推進協議会静岡が運営する「静岡ホビースクエア」の年間来場者数は、2011 年開館当初は約７万人でしたが、2025 年には約３万人まで減少しています。また、同施設は元々市の美術館として整備された施設を転用しているため、構造的な制約があり、大型展示や照明効果を用いた空間演出など展示内容の刷新が難しい状況にあります。

・一方、東静岡地区はもともと文化交流地区として計画され、まず、グランシップが建設されました。現在は、グランシップに加え、2030 年開業予定の静岡市アリーナ、JR 東静岡駅直結の産学官連携施設、新県立中央図書館の整備などが計画され、文化を通じて多様な人々が集う交流拠点としての機能強化が進められています。また、周辺にはタミヤ本社やバンダイホビーセンターなど複数の模型関連施設があり、模型ツーリズムによる市内周遊の起点となることが期待できます。

・2026 年３月、静岡県選出の国会議員らにより、４月には静岡市議会議員により、それぞれ「模型（MOKEI）文化推進議員連盟」が設立され、また、市議会では議員発議による「模型の世界首都条例」の検討が進んでいます。このような状況の変化の中、今、静岡市には、さらなる模型産業の発展、観光誘客のため、模型文化に触れ楽しむことができる環境の整備及び情報発信等の施策の強化が求められています。

２　模型文化発信施設整備構想の概要

（１）施設整備の進め方

・静岡駅南口の「静岡ホビースクエア」を東静岡地区に移転し、模型文化発信施設として再整備することを検討します。

・本日の構想公表後、年度内をめどに意見交換会やアンケート調査などを通じて、本構想についての市民や社会からのご意見を伺います。それらの意見を踏まえ、施設の具体的な規模や機能、配置等を決定し、2029 年度末までの施設開館を目指します。

・建設候補地の検討に当たり、グランシップ芝生広場の地質調査を実施するため、11 月定例会へ予算議案を提出します。

資料４

（２）想定スケジュール

２０２６年度	地質調査、市民との意見交換会、アンケート調査など 施設基本計画の骨子作成及びパブリックコメントの実施
２０２７年度	施設の設計
２０２８年度～２０２９年度	施設の建設、施設指定管理者の指定

（３）建設候補地

グランシップ芝生広場駅舎側（県有地）※配置図は別紙資料４のとおり

（４）主な機能

県内模型関連施設及びイベント等の総合案内窓口、模型展示場、イベントスペース、カフェ、ショップ

（５）総事業費

２０億円程度（建設費）を想定

（６）実施体制

静岡県：建設用地の提供

静岡市：施設の建設

ホビー推進協議会静岡：展示物の制作、展示

（７）運営方法

指定管理者制度の導入を想定

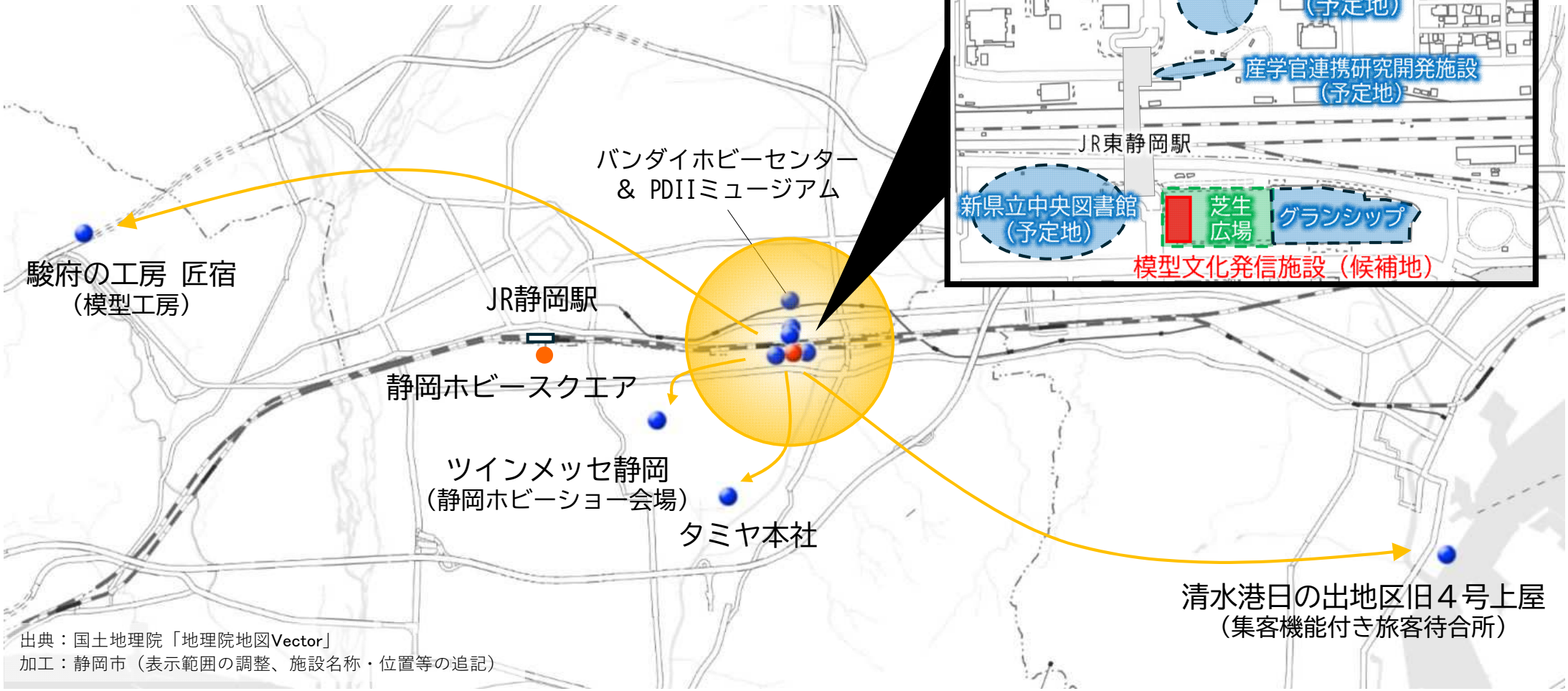
３　期待される効果

・多様な人々が模型文化を体験し、ワクワクしながら楽しめる場を創出することによる来訪者満足度の向上、それによる来訪者数の増加や消費の拡大
・模型メーカーと異業種の企業やクリエイター等との新たな交流・連携を通じた、模型産業が有する技術やコンテンツを生かした新規ビジネスの創出及び関連企業の進出・投資の促進
・静岡市アリーナをはじめとする文化・スポーツ施設と模型文化発信施設の相乗効果による県内外から多様な来訪者が集まる東静岡地区の新たな交流拠点の形成
・カフェ、トイレ等の設置による芝生広場利用者の利便性向上
・模型文化発信施設を起点とした県内各所への来訪者の周遊の活発化による地域経済への波及効果
・こうした模型文化の普及や交流人口の拡大、企業間の連携による新たな事業展開を通じた模型産業を核とするコンテンツ関連産業の持続的な発展と集積の拡大

模型文化発信施設の候補地と市内関連施設の位置関係

資料５

東静岡地区は、グランシップや静岡市アリーナなどの文化・スポーツ施設と模型文化発信施設の相乗効果により、多様な来訪者が集まる拠点性が強化される。
これによって、多くの来訪者による県内各所への周遊が活発化し、地域経済への波及効果が期待される。



出典：国土地理院「地理院地図Vector」
加工：静岡市（表示範囲の調整、施設名称・位置等の追記）